

## 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

## 企画研究プロジェクトⅡ（教員・学生参加型） 2015年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	コミュニティ政策学科4年	高橋 さゆり
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部准教授	空閑 厚樹
研究課題	笑顔と活力をもたらす地域活性化	
プロジェクト 分担者	高橋さゆり、山本大貴、坂崎徹也、河田梨菜、町田奈緒子、岡崎麻美、 齊藤菜摘	

## プロジェクトの内容及び成果の概要

## &lt; 内容 &gt;

埼玉県比企郡小川町の木呂子地区を中心に、実際のフィールドワーク、地元住民との交流や連携を通じて“持続可能なコミュニティ作り”を実践する。そして将来的には立教の学生が関わらなくても発展・持続していけるような地域の土台づくりをしていく。この活動はあくまでも支援であり、地区の主体的な活動のお手伝いをするという形を大切にする。これらのスタンスの中で持続可能性を模索していくものである。

このプロジェクトを一言で表せば“コミュニティを復活させ地域の力を取り戻す”と言えるであろう。コミュニティを復活させれば、社会問題となっている孤独死や無縁社会といった様々な課題の解決へと繋がる。この活動は地元住民に恩恵があるだけでなく、学生にとっても都市生活と人口減少地域の共存の方法についてより具体的に考えることが出来る機会になると言える。

## &lt; 成果 &gt;

大きく3つの成果があった。まず1つ目に各種スポーツ大会(ソフトボール大会、バレーボール大会、体育祭)へ学生が助っ人として参加することにより木呂子地区の地域イベント参加を可能にした。そして2つ目に夏企画や餅つき大会といったイベントへの若者の参加率が増加したことがあげられる。3つ目に新たに小川町オーガニックフェスへの参加や、地元企業で働くインドネシアからの研修生との国際交流を求める声に応じることで木呂子地区だけでなく小川町の活性化に寄与できたと考えている。以前より活動の幅が広がっている。

こうした成果が残せたのは木呂子地区ではもちろんのこと、小川町全体で今までの活動が認められた結果だといえる。